



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-18 現代の教養	20130586019701	●現代の教養 I(文化と社 会)	和	E	勝俣 隆	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-18 現代の教養	20130586020101	●現代の教養 I(自然の科 学)	和	E	大庭 伸 也	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-18 現代の教養	20130586020501	●現代の教養 I(芸術の世 界)	和	E	三上 次 郎	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-18 現代の教養**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586019701	科目番号	05860197
授業科目名	●現代の教養Ⅰ(文化と社会)		
編集担当教員	勝俣 隆		
授業担当教員名(科目責任者)	勝俣 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝俣 隆, 飯塚 知敬, 福留 真紀		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	katumata@, iizuka@, fukutome@		
担当教員研究室	教育学部 6 5 3 (勝俣), 6 1 0 (飯塚), 6 1 4 (福留)		
担当教員TEL	2299(勝俣)、2313(飯塚)、2312(福留)		
担当教員オフィスアワー	各教員室のドアの掲示参照		
授業のねらい	人文科学を代表する文学・哲学・歴史学を専門とする3名が、それぞれの専門分野について、現代の教養として、必要な知識と能力、ものの見方、考え方等について、分かり易く解説し、受講者と共に考える授業を目指す。具体的には、日本の古典文学、西洋の哲学・倫理学、日本の歴史について、具体的な事例を基に解説し、受講者自身が考え、教員との質疑応答を通して、より深い理解に達することを目標とする。どの分野の講義についても、主体的に取り組んで、大学で学ぶものとしての要求される最低限の生きる教養を身に付けて欲しい。		
授業方法(学習指導法)	文学・哲学・歴史学のそれぞれの担当者が用意したプリントや画像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な事例に基づいて解説し、受講者は、その具体例と解説に基づいて考え、各自の判断と意見を持つことを目指す。受講者は、それぞれの担当者の指示に適切に従って受講されたい。出席は、それぞれの担当者の方法によるが、人数数なので、基本的に、小レポートのような形で各自の意見・質問等を毎時の終わりに書いてもらい、出席を確認する。併せて、その小レポートの内容については、次回に、担当者がコメントする形を取る。但し、その具体的方法は、各担当者の方針で、変化があり得る。また、それぞれの担当者は5回ずつの講義を行い、5回目の講義の一部を使い、試験を実施する。		
授業到達目標	文学・哲学・歴史学の各分野において、担当者が用意した文字資料・画像資料等をほぼ正しく理解し、また、それらの資料から、自分自身が判断し、独自のものの見方を身に付けることを授業到達目標とする。例えば、文学の場合であれば、日本の文学の世界における意味が分かり、その代表的な作品の具体的内容を理解し、文学と社会の関係について、その仕組みを理解できるといったことが最低限の到達目標であり、その上で、さらに、各自が、こうした見方も出来るのではないかとことまで考えることを最終的な目標としたい。高校までの暗記の学問ではなく、大学では、自分で考え、疑問に思ったことを調べたり考えたりして解決していくのだという主体的な取り組みが出来ることを目指す。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 勝俣担当 ガイダンス及び、日本の文学の特色について 2. 勝俣担当 上代の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 3. 勝俣担当 中古の具体的作品の読解と鑑賞、その謎を解く 4. 勝俣担当 中世・近世の作品の読解と鑑賞、その謎を解く 		

授業内容	<p>5, 勝俣担当 近代の作品と社会。及び試験。 6, 飯塚担当 哲学のはじまりとギリシア思想 7, 飯塚担当 中世の宗教と思想 8, 飯塚担当 近代の科学と思想 9, 飯塚担当 現代の社会と思想 10, 飯塚担当 まとめと試験 11, 福留担当 肖像画を読み解く (1) 12, 福留担当 肖像画を読み解く (2) 13, 福留担当 「鎖国」とは何か 14, 福留担当 島原の乱を考える 15, 武士と町人。及び試験。</p>
キーワード	日本古典文学入門 謎解き 西洋哲学・倫理学史入門 時代背景 日本史入門 資料読解 真相探求
教科書・教材・参考書	各担当者から講義の際に具体的に指示される。
成績評価の方法・基準等	<p>授業への積極的参加 2割 授業内容の主体的理解と応用 2割 小レポートによる思考力の判定 2割 試験による理解度の判定 4割</p>
受講要件 (履修条件)	文学・哲学・歴史学に関心があり、主体的に努力する意志のあること。
本科目の位置づけ	理系の人には是非受講して欲しい科目。
学習・教育目標	高校までの教科書通りの暗記中心の学習からの解放。講義に主体的に参加し、また講義内容に対して、常に疑問を抱き、批判的に思考できる能力。理系の人が大学生として、最低限持って欲しい文系的なものを見方を身に付ける機会としたい。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	文学・哲学・歴史学に関する図書を沢山読んで欲しい。



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-18 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586020101	科目番号	05860201
授業科目名	●現代の教養Ⅰ(自然の科学)		
編集担当教員	大庭 伸也		
授業担当教員名(科目責任者)	大庭 伸也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大庭 伸也		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	ooba@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館 412室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	特に指定しない		
授業のねらい	高等学校生物よりもさらに深く学ぶ。動物が地球上に誕生してから現在に至るまでのプロセスを理解する。また、動物の多様な種類、形態、行動、生活史、生態が如何にして形作られてきたのかを理解する。		
授業方法（学習指導法）	スライドを中心に内容を説明する。スライドの一部をプリントとして配布するので、必要に応じてノートを取る。		
授業到達目標	動物が現在の姿・形になった背景を進化の視点から説明できるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション：動物とは何か？	
	2	地球の誕生から現在まで	
	3	ダーウィン進化論	
	4	種分化	
	5	環境への適応	
	6	個体群と生活史、性の進化	
	7	種内・種間の相互作用	
	8	生物のコミュニケーション	
	9	捕食者・被食者の関係	
	10	配偶行動と性選択	
	11	セクシャル・コンフリクト -雄と雌の共進化	
	12	親による子の保護	

	13	種の保存論、群選択、社会性
	14	真社会性の進化
	15	ヒトという動物
	16	
キーワード	自然選択、生活史、性選択、配偶行動、個体群、行動	
教科書・教材・参考書	嶋田正和ほか『動物生態学 新版』、海遊舎、2005年、酒井聡樹ほか『生き物の進化ゲーム大改訂版：進化生態学の最前線：生物の不思議を解く』、共立出版、2012年 講義の際に資料を配布します。	
成績評価の方法・基準等	最終試験、授業の参加状況を基に総合的に評価	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-18 現代の教養**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586020501	科目番号	05860205
授業科目名	●現代の教養Ⅰ(芸術の世界)		
編集担当教員	三上 次郎		
授業担当教員名(科目責任者)	三上 次郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三上 次郎		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	mikami@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟 3階		
担当教員TEL	095-819-2344		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	音楽の歴史や作品を知り、その音楽を支える楽譜の仕組みを理解する。		
授業方法(学習指導法)	講義、鑑賞、課題の解答		
授業到達目標	ルネサンス期からロマン派後期までの音楽史が概観できることと、楽譜の仕組みが理解できるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	芸術の定義とルネサンスの芸術	
	2	ルネサンスの芸術	
	3	ルネサンスからバロックの時代へ	
	4	バロックから古典派へ	
	5	古典派とドイツ三大Bについて	
	6	前期ロマン派の音楽	
	7	中期ロマン派の音楽	
	8	後期ロマン派の音楽	
	9	音楽理論(1) 音の高さ、譜表、音の名称について	
	10	音楽理論(2) 音程について	
	11	音楽理論(3) より複雑な音程について	
	12	音楽理論(4) 長調の音階と調名について	
	13	音楽理論(5) 短調の音階と調名について	
14	音楽理論(6) 和音について		

	15 音楽理論（7）和音とコードネーム
	16 まとめ
キーワード	音楽史、音楽理論、美術史、美学
教科書・教材・参考書	「西洋音楽概説」門馬直美著春秋社、「音楽通論」教育芸術社、「楽典」石桁真礼生他著、音楽の友社
成績評価の方法・基準等	毎回テストを行い、その累計で評価する。1回の授業は出席とテストそれぞれ10点ずつで、300点を満点とする。
受講要件（履修条件）	後半に行われる音楽理論はある程度音楽経験が必要と思われる。12年度に試験的に行った授業で、音楽経験の少ない学生が苦戦していたようだった。
本科目の位置づけ	音楽史の概略と音楽理論の基礎知識の習得を目的とする。
学習・教育目標	人口に膾炙する作曲家や作品を知ること、また、音楽を支える楽譜の仕組みを知ることが目標とする。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	

